令和７年度　歴史総合＋世界史探究（03コア）

試験開始の合図があるまでに，次の注意をよく読んで，間違いのないように受験してください。

1．試験開始の合図があるまで冊子を開かないでください。

2．この冊子には問題16ページ，マークによる解答用紙[マーク]，記述による解答用紙[記述]各１枚がセットになっています。

3．試験開始の合図があったら，問題のページ数を確認し，解答用紙[マーク]・[記述]をミシン目で折ってから冊子よりていねいに切り離し，すべての解答用紙に受験番号を記入してください。解答用紙[マーク]の受験番号欄は，右を参考に記入してください。

4．問題・解答用紙に落丁，乱丁，印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。

5．解答用紙[マーク]はすべてHBの黒鉛筆(シャープペンシル可)で記入することになっています。答えを訂正する場合は，プラスチック消しゴムでよく消して，訂正してください。プラスチック消しゴムを忘れた人には貸与します。

例　受験番号が０６３７のとき

受験番号				
千位	百位	十位	一位	
0	6	3	7	
0	●	⓪	⓪	⓪	0
1	①	①	①	①	1
2	②	②	②	②	2
3	③	③	●	③	3
4	④	④	④	④	4
5	⑤	⑤	⑤	⑤	5
6	⑥	●	⑥	⑥	6
7	⑦	⑦	⑦	●	7
8	⑧	⑧	⑧	⑧	8
9	⑨	⑨	⑨	⑨	9

6．解答用紙[記述]は，HB以外の黒鉛筆(シャープペンシル可)や黒・青の万年筆またはボールペンを使用してもかまいません。

7．文字ははっきり，ていねいに書いてください。

8．解答用紙の点数欄には何も記入しないでください。

9．複数の解答用紙がある場合，使用していない解答用紙は机の上に裏返しにしてください。

2025 歴史総合＋世界史探究　解答用紙 マーク

03コア

良い例	悪い例
●	● ◐ ⊗ ◑

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークすること。

受験番号				
	千位	百位	十位	一位
0	⓪	⓪	⓪	⓪
1	①	①	①	①
2	②	②	②	②
3	③	③	③	③
4	④	④	④	④
5	⑤	⑤	⑤	⑤
6	⑥	⑥	⑥	⑥
7	⑦	⑦	⑦	⑦
8	⑧	⑧	⑧	⑧
9	⑨	⑨	⑨	⑨

ⅠA

	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④
(6)	①	②	③	④
(7)	①	②	③	④
(8)	①	②	③	④
(9)	①	②	③	④
(10)	①	②	③	④

ⅡA

	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④
(6)	①	②	③	④
(7)	①	②	③	④
(8)	①	②	③	④

Ⅲ

	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④

ⅠB

	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④
(6)	①	②	③	④
(7)	①	②	③	④
(8)	①	②	③	④
(9)	①	②	③	④
(10)	①	②	③	④

ⅡB

	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④
(6)	①	②	③	④
(7)	①	②	③	④
(8)	①	②	③	④

本欄は記入しないこと。

十位	一位
⓪	⓪
①	①
②	②
③	③
④	④
⑤	⑤
⑥	⑥
⑦	⑦
⑧	⑧
⑨	⑨

CB03W-OMR

2025 歴史総合＋世界史探究　解答用紙 記述 03コア 受験番号

総点

Ⅳ

	A（誤）	B（正）
1		
2		
3		
4		
5		
6		

	設問
(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	
(6)	

評点

ⅤA

評点

ⅤB

評点

問題は次のページより始まります。

I　次のA・Bの文章を読み，それぞれ(1)～(10)の設問について〔　　〕内の語句から最も適切と思われるものを選び，その記号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙マーク〕(20点)

A　インドにおけるイスラームの浸透はインド西北からの度重なる異民族の侵入の歴史と深く結びついていた。13世紀，アフガニスタンから遠征したゴール朝の軍に加わり，支配地を委ねられたアイバクは奴隷王朝を創始したが，同王朝は南アジアで最初のイスラーム王朝であった。以後デリー＝スルタン朝と呼ばれる諸王朝が続いたが，その時期，デリーには多くのイスラーム商人や知識人が訪れた。たとえば，有名な旅行家イブン＝バットゥータは1333年より約8年間同地に滞在した。(1)〔①ガズナ朝　②ホラズム朝　③トゥグルク朝　④ブワイフ朝〕第2代の王がデリーを統治していた時のことである。

16世紀半ば，(2)〔①キルギス　②ウズベク　③チャガタイ　④スキタイ〕によって中央アジアのサマルカンドから追われたバーブルは，何度も同地奪回を志すも果たせず，インド攻略に向けて機会をうかがうなか，1526年，デリーの北の(3)〔①カーブル　②アグラ　③パーニーパット　④コルカタ〕でロディー朝軍を破り，ムガル朝を樹立した。しかし，ムガル朝はその後順調に北インドでの征服事業を展開したわけではない。バーブルの死後，ビハール地方によるスール朝と戦って破れた息子のフマーユーンは，(4)〔①パフレヴィー朝　②サファヴィー朝　③ガージャール朝　④ササン朝〕治下のペルシアに逃れ，15年ものあいだ，雌伏して時を待たねばならなかった。スール朝の弱体化に乗じてフマーユーンがデリーを奪還したのは1555年のことである。

デリーを回復してまもなく死去したフマーユーンの征服事業を受け継いだのは，ムガル帝国の第3代皇帝(5)〔①ナーナク　②シャー＝ジャハーン　③アクバル　④ジンナー〕である。(5)は，西部から中部インドを拠点とし，ヒンドゥー勢力を代表するラージプートとも協調関係を築いた。古代(6)〔①シュードラ　②バラモン　③クシャトリヤ　④ヴァイシャ〕の子孫を自称したラージプートは，氏族的性格を残しつつ勇敢な武人たちを輩出した集団であった。(5)はこのラージプートの王族から妻を迎えたが，それもまた，従来の中央アジア的

な部族伝統を継承する軍事体制を改革し，ラージプート軍団を積極的に取り込もうとする政策から出たものであった。(5) は官僚に位階を設けそれに応じて一定の人員，騎馬・騎兵徴用権を付与する (7)〔①マンサブダール制　②イクター制　③ザミンダーリー制　④ライヤットワーリー制〕を導入したが，ラージプートもまた，イスラームに改宗することなく位階を与えられた。

(5) は非イスラーム教徒に課せられる人頭税を廃止したが，(5) は同時に，イスラーム神秘主義を奉じヒンドゥー教との宗教的融合に積極的であった皇帝としても知られている。もちろんインドにおいて，そうした主張が (5) により最初になされたわけではない。15世紀後半には，高位カーストの私生児として生まれ，織物工として生涯を送りながら，神へのバクティ（絶対的信愛）を説き，イスラームとヒンドゥーとの融合を説いた (8)〔①アンベードカル　②カビール　③タゴール　④フィルドゥーシー〕のように，イスラームとヒンドゥーとの共通性に目を向ける思想も生まれていた。(5) の曾孫にあたるダーラー＝シコーもまた，自身はムガル帝国の皇太子の地位にありながら，(9)〔①マヌ法典　②ウパニシャッド　③アヴェスター　④ルバイヤート〕をペルシア語に翻訳するなど，ヒンドゥー教の神秘主義にも深い関心を寄せた学者肌の皇族であったが，弟のアウラングゼーブとの皇位継承争いに敗れ，処刑されるに至った。

皇帝の座に即いたアウラングゼーブは，人頭税を復活させるなど，(5) 時代にとられた非イスラーム勢力との共存路線を大きく転換させた。その治世中，確かに最大版図を獲得するのに成功したが，ムガル帝国内の非イスラーム勢力の激しい抵抗を招いた。中でも，アウラングゼーブに対し頑強に抵抗したのは，デカン西部のプネーを中心とした (10)〔①シク王国　②マラーター王国　③ヴィジャヤナガル王国　④マイソール王国〕であった。創始者シヴァージーの死後も (10) は宰相府のもとで緩やかな同盟として勢力を維持し，イギリスによって解体させられるまで，ムガル帝国に対抗し続けたのであった。

B　ドイツ騎士団の母体となったのは，第３回十字軍のさなかの1190年，パレスチナの港湾都市 (1)〔①アッコン　②キプロス　③コンスタンティノープル　④トリポリ〕攻囲の際に結成された，ドイツ人の十字軍兵士のための施療院とされる。これはまもなく騎士修道会に発展し，1199年，(2)〔①インノケンティウス３世　②ウルバヌス２世　③グレゴリウス７世　④ボニファティウス８世〕の承認を得た。13世紀になると神聖ローマ皇帝 (3)〔①カール４世　②カール５世　③フリードリヒ１世　④フリードリヒ２世〕の庇護を受け，彼がアイユーブ朝との交渉で聖地を回復すると，さらに勢威を増した。

ドイツ騎士団はまた，北方では (4)〔①ドナウ川　②ドニエプル川　③エルベ川　④ライン川〕以東の地域に活動範囲を広げるようになった。この地方では異教の伝統が強固で，宣教の試みは一進一退だった。ドイツ騎士団は，同地のマゾフシェ公からの招聘を奇貨として，キリスト教徒の防衛と異教徒である (5)〔①チェック　②デーン　③フィン　④プロイセン〕人の改宗とを口実に，この地方での領土と権益の確保を図ったのである。(3) と教皇にはあらかじめ，獲得した土地の支配権を認めさせていた。

彼らは教会や王侯貴族たちの支持や支援を集めるために異教徒の残虐さを喧伝していたが，その所業はさらに凶悪で，侵攻と征服の過程では，神の名の下，略奪や放火，虐殺を繰り返した。ドイツ人入植者が押し寄せて土地の開墾や集落の建設を行う一方，生き残った現地の人々は隷属的な状態に置かれた。その固有の宗教，言語，文化も，ついには消滅することになった。

ドイツ騎士団の富と力の源泉の一つは北海，バルト海での交易だった。中継貿易だけでなく自国産の琥珀や穀物などの輸出も行っている。主要な貿易港は (6)〔①クラクフ　②ダンツィヒ　③ハンブルク　④マクデブルク〕（現ポーランドのグダンスク）や，ケーニヒスベルク（現ロシアのカリーニングラード）などで，いずれものちにハンザ同盟に加盟している。

13世紀後半以降，ドイツ騎士団の東方進出を阻む最大の勢力は，異教を堅持する (7)〔①エストニア　②リトアニア　③モスクワ　④ブルガリア〕だった。1386年，(7) の大公 (8)〔①イヴァン３世　②イヴァン４世　③カジミェシュ　④ヤゲウォ〕は，ドイツ騎士団の攻勢に対抗するため，キリスト教に改宗してポー

ランドの女王と結婚し，両国は同君連合となった。ドイツ騎士団は，教皇庁からの再三の警告にもかかわらず，既にカトリックを受容したこの国に侵略を繰り返したが，1410年のタンネンベルクの戦いで大敗を喫し，総長をはじめ多くの幹部が戦死した。何とか和約に持ち込むものの，ポーランドへの莫大な賠償金が残り，世紀半ばの十三年戦争でも再び敗北して，往時の勢いを失った。

異教徒の征伐と宣教という正当性を失い，ドイツ騎士団は政治的にも軍事的にも窮迫した。16世紀初頭には (9)〔①シュタウフェン　②ホーエンツォレルン　③ハノーヴァー　④ハプスブルク〕家出身の総長が騎士たちとともにルター派に改宗し，ポーランド王国に臣従して，世俗国家である (5) 公国が成立した。この国はのちに (10)〔①オーストリア大公国　②ザクセン選帝侯国　③ブランデンブルク選帝侯国　④ベーメン王国〕との合邦を経て18世紀には王国となり，(9) 家の王統の下，ドイツ統一の母体となった。

Ⅱ　次のＡ・Ｂの文章を読み，それぞれ(1)～(8)の設問について〔　　〕内の語句から最も適切と思われるものを選び，その記号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙マーク〕（16点）

Ａ　前500年に小アジアのイオニア地方ギリシア人植民市がアケメネス朝ペルシアに対して起こした反乱に始まるギリシア人諸ポリスとアケメネス朝ペルシアとの戦争，いわゆるペルシア戦争は，古代ギリシアの歴史の大きな分岐点であった。

ペルシア戦争が始まった時点のアケメネス朝ペルシアの支配者は，第３代の大王（「諸王の王」）とされる (1)〔①キュロス２世　②ダレイオス１世　③ダレイオス３世　④ネブカドネザル２世〕であった。(1) は，黒海北岸の遊牧民族 (2)〔①エフタル　②スキタイ　③パルティア　④フン〕への遠征を企て，アジアからヨーロッパに渡り，さらに現在のドナウ河を渡河して北上した。この遠征自体は，(2) の焦土作戦のために失敗してペルシア軍は撤退したが，エーゲ海北岸のトラキア地方はペルシアの支配下に入り，西隣のマケドニア王国もペルシアの影響下に入った。

アケメネス朝のギリシア本土遠征の主要な対象とされるアテネでは，前６世紀を通じて，大きな国制の変動を経験していた。前６世紀の終わりには，非合法な手段で権力を握った僭主である (3)〔①クレイステネス　②ソロン　③ドラコン　④ペイシストラトス〕一族の支配を打倒して市民全体の統治である民主政（デモクラティア）を回復したところであった。

イオニアのギリシア人植民市は，ギリシア人僭主を介して，ペルシアの間接的支配下にあった。イオニアの植民市が，反乱を起こす際には中心となった植民市 (4)〔①ネアポリス　②ビザンティオン　③マッサリア　④ミレトス〕では，僭主が自らその地位を退き，他の諸植民市での僭主支配も終わらせて反乱を起こした。このイオニアの反乱には，歴史的に関係の深いアテネともう一つのポリスが支援のための艦隊を派遣した。

イオニアの反乱支援の報復を意図したペルシアのギリシア本土遠征は，最初はエーゲ海北岸に沿って陸上部隊と艦隊を並行して進める形で行われたが，嵐と現地部族の抵抗のために失敗した。その後，ペルシアはエーゲ海の海上を横断する

進軍路に方針を変更した。エーゲ海島嶼部のギリシア人ポリスの多くを屈服させたペルシアの大軍は，以前にアテネの僭主であり追放されていた (3) の息子を伴って，前490年にアッティカ地方北東部のマラトンに上陸した。このペルシア軍はアテネの将軍 (5)〔①アンティゴノス　②セレウコス　③プトレマイオス　④ミルティアデス〕率いる重装歩兵軍に撃退された。なお，このアテネの将軍 (5) は，かつてエーゲ海と黒海とを結ぶ海峡地帯で僭主の地位にあって，ペルシア軍の部将として (2) への遠征に従軍したこともあり，アテネの政界での彼の立場は微妙なものであった。実際，彼は，後に軍事作戦の失敗を理由に告発され，支払うことの出来ない莫大な額の罰金を科されて獄死している。

ペルシア王 (1) は，再度のギリシア本土遠征を計画したが，ペルシア支配地域での反乱が続き，実現できないままに亡くなった。次の大王となった (1) の息子クセルクセス１世は，帝国内の反乱を鎮めた後に，エーゲ海北岸経由でのギリシア本土遠征を開始した。ギリシア本土に侵入したペルシアの圧倒的な大軍の前に，ギリシア本土北部・中部の諸ポリスはほぼ戦わずに屈服したが，ペルシア大王の報復の対象であるアテネと，精強な重装歩兵部隊や独特の国制で知られるドーリア人ポリス (6)〔①コリントス　②スパルタ　③タレントゥム　④テーベ〕と (6) を盟主とする同盟の加盟ポリスが抗戦を決意した。前480年，(6) を中心とするギリシア側の連合軍は，ギリシア本土中部と南部との境界の要衝であった (7)〔①アルベラ　②カイロネイア　③テルモピレー　④ミカレー〕でペルシアの大軍に対して善戦したが，最終的に敗北して (6) 人部隊は全滅した。ギリシア本土南部に侵入したペルシアの陸海軍は，アテネの領域であるアッティカ地方に乱入してアテネ市街も占領したが，アテネ市民は抗戦を続け，将軍テミストクレスの指導の下，サラミス湾の海戦でペルシアの大艦隊を退け，翌年の前479年にプラタイアの戦いで，(6) とアテネの重装歩兵部隊を主力とするギリシア諸ポリス連合軍が，陸上でもペルシアの大軍を破った。

前478年には，エーゲ海の島嶼部や小アジアのイオニア地方などのギリシア人ポリスが，アテネを中心にアケメネス朝ペルシアの再侵攻に備える軍事同盟である (8)〔①コリントス　②デロス　③ペロポネソス　④隣保〕同盟を結成した。やがて，この (8) 同盟と (6) を盟主とする諸ポリスとが，激しく対立することになる。

B　清朝末期以降の中国知識人たちは，大量の西洋思想を受容していくこととなったが，一方で，中国の旧来の思想とりわけ儒教もその影響力を保持した。

清朝末期の最も著名な儒家の一人であった (1)〔①李鴻章　②宋教仁　③李大釗　④康有為〕は，西洋の政治制度について独自の理解を示しつつ，光緒帝の下で中国の政治改革を図ったことで知られるが，彼の改革思想は，五経の一つである (2)〔①『史記』　②『春秋』　③『論語』　④『楚辞』〕の注釈書『公羊伝』の内容に基づくものであった。(1) は，儒教を宗教化・国教化することを構想し，孔教運動と呼ばれる運動を展開していった。

一方，このような (1) の動きには，儒教の内部から強い批判が現れた。代表的な批判者は章炳麟である。彼は，1905年に東京で結成された革命派の団体である (3)〔①興中会　②中国同盟会　③中華革命党　④中国国民党〕にも参加した革命家であるとともに，(1) とは対立する古文派に位置づけられる儒家でもあった。このように，清朝末期から中華民国初期にいたる思想家たちの対立には，儒教上の議論が関係していたのである。

1910年代後半に展開された新文化運動は，中華民国成立後の政治的混乱を打開しようとする雰囲気のなかで展開され，中国旧来の文化を批判し，西洋の近代的な文化を中国に根付かせることを目指した。その過程で儒教は，中国の古い文化の代表として徹底的に批判された。陳独秀が『新青年』誌上で厳しい儒教批判を展開したことは，よく知られている。

ところが，第一次世界大戦後の中国では，戦争の惨禍から西洋文化への懐疑が生じ，今後の世界秩序を担うべきものとして中国文化に注目があつまり，一部の思想家は儒教を再評価していくことになる。こうした思想家はのちに新儒家と呼ばれるようになった。新儒家の思想の特徴は，第一に，儒教の中でも宋代や明代の儒教を重視したことであり，とりわけ，明代の儒家で，人がみな心に真正の道徳を持つことを主張し道徳実践を重んじた (4)〔①周敦頤　②王重陽　③欧陽脩　④王守仁〕の学問が重視された。第二の特徴は，新儒家の多くが，西洋思想に対する独自の理解を有し，その理解を土台にして儒教を再評価したことである。新儒家が主に参照した西洋思想家は，ギリシアの哲学者アリストテレスや，ドイツの哲学者で合理主義と経験主義を批判的に統合した (5)〔①デカルト　②カント

③スピノザ　④ロック〕，そしてフランスの哲学者ベルクソンなどであった。その後，中華人民共和国の成立に際し，こうした新儒家のうち，一部の者は，中国共産党政権下の中国大陸に残って活動し，また一部の者は，中国共産党政権への不信感から，台湾や香港に拠点を移し活動を続けていった。

中華人民共和国の成立および台湾への中華民国政府の移転以降は，儒教は主に政治運動と結びついて存在感を示した。まず中華人民共和国については，中国共産党は儒教を封建道徳として打倒する立場にあり，そのような傾向が政治運動に現れた。1966年，毛沢東が改革派との対立のもとで発動した (6)〔①「大躍進」運動　②文学革命　③プロレタリア文化大革命　④改革開放政策〕においては，儒教を含む中国の伝統文化が徹底的に批判され，破壊された。そして (6) の末期には，毛沢東の後継者と目されながら失脚し，ソ連へ逃亡中に墜落死した (7)〔①劉少奇　②林彪　③鄧小平　④江青〕を孔子と結びつけて大々的に批判する政治キャンペーンが展開された。

一方台湾では，(6) の開始後まもなく，中華民国総統 (8)〔①汪兆銘　②孫文　③蔣介石　④李登輝〕政権の下，(6) のように中国共産党が儒教をはじめとする中国伝統文化を破壊したことを強く批判し，中国伝統文化の保存・振興を唱える「中華文化復興運動」が展開された。この運動は，中華人民共和国に対し，中国文化を保持する中華民国政府こそが唯一正統な中国政府であることを示そうとしたものであったと言われている。

Ⅲ　下記の設問(1)～(5)を読み，答えとして最も適切と思われるものを選び，その記号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙マーク〕(10点)

(1)　ロシアに関して述べた次の文章ａ～ｄについて，時代の古いものから順に正しく配列したものを，下の①～④から一つ選びなさい。

ａ．コサック出身のプガチョフが反乱を起こした。

ｂ．清朝とのあいだでネルチンスク条約を結び，国境の画定を行った。

ｃ．アレクサンドル２世が農奴解放令を発した。

ｄ．大陸封鎖令に違反したとしてナポレオン軍の侵入を受けた。

①　ａ→ｂ→ｃ→ｄ

②　ｂ→ａ→ｃ→ｄ

③　ａ→ｂ→ｄ→ｃ

④　ｂ→ａ→ｄ→ｃ

(2)　イングランドとイギリスに関して述べた次の文章ａ～ｄについて，時代の古いものから順に正しく配列したものを，下の①～④から一つ選びなさい。

ａ．スコットランド王ジェームズをイングランド王として迎えて同君連合を形成した。

ｂ．オランダ総督ウィレムを共同統治の国王とした。

ｃ．ドイツのハノーヴァー選帝侯ジョージを招いて国王とした。

ｄ．合同法によってアイルランド議会を廃止しアイルランドを併合した。

①　ａ→ｂ→ｃ→ｄ

②　ｂ→ａ→ｃ→ｄ

③　ａ→ｂ→ｄ→ｃ

④　ｂ→ａ→ｄ→ｃ

(3) 18世紀ヨーロッパの国際関係に関して述べた次の文章a～dについて，時代の古いものから順に正しく配列したものを，下の①～④から一つ選びなさい。

a．ロシア・プロイセン・オーストリアの3国がポーランドを分割，併合した。

b．オーストリアのハプスブルク家とフランスのブルボン家の関係が対立から同盟へと変化する「外交革命」が起きた。

c．マリア＝テレジアのハプスブルク家継承などをめぐってオーストリア継承戦争が起きた。

d．ユトレヒト条約でフェリペ5世のスペイン王位継承が認められた。

① a→b→c→d

② d→b→c→a

③ a→c→b→d

④ d→c→b→a

(4) 19世紀ヨーロッパに関して述べた次の文章a～dについて，時代の古いものから順に正しく配列したものを，下の①～④から一つ選びなさい。

a．イタリア王国が成立し，サヴォイア家のヴィットーリオ＝エマヌエーレ2世がイタリア国王となった。

b．フランスで七月革命が起き，ルイ＝フィリップが国王として即位した。

c．ウィーンとベルリンで市民らが立ち上がって三月革命が起きたが，保守派の弾圧を受けた。

d．南下政策をとるロシアと，オスマン帝国とそれを支援する西欧諸国とのあいだでクリミア戦争が起きた。

① d→c→b→a

② b→a→d→c

③ d→a→b→c

④ b→c→d→a

(5) 第一次世界大戦前後の国際情勢に関して述べた次の文章ａ～ｄについて，時代の古いものから順に正しく配列したものを，下の①～④から一つ選びなさい。

ａ．アメリカ大統領が十四ヵ条の平和原則を発表した。

ｂ．朝鮮で三・一独立運動が起きた。

ｃ．日本が中国に対して二十一ヵ条の要求を行った。

ｄ．オーストリア帝国の帝位継承者がサライェヴォで暗殺された。

① ｃ→ｄ→ｂ→ａ

② ｄ→ｃ→ｂ→ａ

③ ｃ→ｄ→ａ→ｂ

④ ｄ→ｃ→ａ→ｂ

Ⅳ　以下の各文章１～６にはそれぞれ明白な誤りが一つずつ含まれている。誤りの語句を解答用紙所定のＡ欄に，それに代わるべき正しい語句をＢ欄に記入しなさい。また各文章１～６に付された設問(1)～(6)の答えを解答用紙所定の欄に記入しなさい。〔解答用紙記述〕（24点）

１．クリスティーヌ＝ド＝ピザンは1364年，ヴェネツィアに生まれた。学者である父に従って幼くしてフランスに移り，文芸の愛好家だったシャルル５世の宮廷で訓育を受ける。20代で父と夫を失った後は，写本の作成や詩文の執筆で名を上げた。とりわけ1405年に発表した『女の都』は，伝説上・歴史上の様々な女性が登場する寓意的な作品で，女性の尊厳と才能を顕揚するものとして名高い。彼女が生きたのは，フランス国内は百年戦争で荒廃し，教会でもローマとアヴィニョンに教皇が分立して大シスマが起こるという，混乱した時代だった。晩年は戦禍を避けて修道院に隠棲したが，ジャンヌ＝ダルクが現れてイギリス軍に包囲されていたカレーを解放し，危地にあった国王シャルル７世を救うと，この少女を称える讃歌を著した。これが彼女の遺作である。

設問(1)　フランスから撤退した後のイギリスでは，王位継承をめぐってバラ戦争が起こった。この戦争を終結させたヘンリ７世が開いた王朝の名を，答えなさい。

２．オランプ＝ド＝グージュは1748年，トゥールーズの近郊で生まれた。若くして夫と死別した彼女はパリに上って上流社会に出入りするようになり，やがて文筆によって頭角を現した。フランス革命が勃発し，国民公会が『人間および市民の権利の宣言』を採択すると，彼女はこれが女性の権利を閑却している点を批判して，『女性の権利宣言』を発表した。彼女は穏健共和派であるジロンド派に近く，山岳派の指導者であるロベスピエールを公然と批判し，8月10日事件で廃位されていたルイ16世の死刑にも反対した。そのためもあって，恐怖政治の時代になると，彼女は反革命として逮捕され，処刑された。

設問(2)　オランプ＝ド＝グージュはまた，革命前から黒人奴隷制度を告発し，この問題を扱う戯曲を発表している。革命期のフランスでは実際に黒人奴隷制が廃止されるが，その契機となる奴隷反乱の起こったフランス植民地の名を，答えなさい。

3．趙匡胤は後周の皇帝から禅譲を受け，宋を建てた。宋は科挙によって選抜された文人官僚が政治を主導する文治主義をとったが，北方に強力な異民族の国家が存在していて，それへの対処が大きな課題となった。宋は，モンゴル系のキタイの国である遼には澶淵の盟にもとづき毎年多額の銀や絹を贈り，チベット系のタングートが建てた西夏にも毎年銀や絹・茶を贈った。遼の支配下にあったツングース系の女真の完顔阿骨打は遼に対して反乱を起こし，1115年に金を建てた。金はさらに遼を攻撃したが，宋とは1120年に海上の盟を結んで提携することとした。金は1125年に遼を滅ぼしたが，その後，金と宋の間に問題が生じたため，金は開封を攻撃し，1127年に当時の皇帝や上皇を捕虜として連行した。この事件を土木の変という。

設問(3)　宋の皇帝らが金に連行された後，皇帝の弟が南に逃れて宋を存続させた(南宋)。後に南宋と金との間で結ばれた和議では，ある河川が両国の国境とされた。この河川の名を答えなさい。

4．日露戦争の結果は，中国の一部の人士の間では，「専制政体国」に対する「立憲政体国」の勝利として受け取られた。当時の中国では清朝の打倒を主張する革命派とともに，国会の開設を要求する立憲派も勢力を伸ばしつつあった。清朝も立憲政体への移行を視野に入れ始め，1906年に預備立憲の上諭を発し，1908年には欽定憲法大綱を発布するとともに，将来国会を開設する方針を示した。だが，1911年に清朝が幹線鉄道の国有化政策を打ち出すと，各地で反対運動が起こり，四川では暴動が発生した。さらに10月10日には南京で新軍が蜂起し，それが辛亥革命の契機となり，1912年１月に中華民国が成立，２月には宣統帝が退位し，清朝における国会開設は幻に終わった。

設問(4)　辛亥革命が発生すると，清朝は1909年に失脚させた漢族の有力政治家を内閣総理大臣に任命して革命の鎮圧をはかった。しかし，彼は革命派側と取引し，宣統帝を退位に追い込み，自身は中華民国の臨時大総統の地位を譲り受けた。この政治家は誰か，答えなさい。

5．数次にわたる中東戦争の時期に，パレスチナの解放を目的とするPLOが結成され，1970年代半ばには，オブザーバーとして国連総会に参加して民族自決権を訴えた。1993年，PLOのアラファト議長とイスラエルのサダト首相の間で，両者の相互承認とパレスチナの暫定自治政府の樹立で合意する協定が結ばれた。協定の調印には，アメリカのクリントン大統領が立ち会った。しかし和平に対する反発も強く，協定に調印したイスラエル首相はユダヤ教急進派に暗殺され，パレスチナ人の間では武装闘争を展開するハマースが勢力を伸張し，深刻化した対立が再燃した。

設問(5)　1993年の協定は，仲介した第三国の首都近郊で秘密裏に交渉が進められたが，この第三国はどこか，国名を答えなさい。

6．1990年，イラクのフセイン政権は隣国のシリアに侵攻した。それに対し，国連安全保障理事会の決議で，アメリカ軍を中心とした多国籍軍が結成されて派遣された。これが湾岸戦争である。多国籍軍はイラク軍を撤退させたが，イラク国内には攻め込まなかった。2001年，アメリカで同時多発テロ事件が勃発し，アメリカはテロと戦うことを大義名分として軍事行動を拡大した。アフガニスタンへの攻撃に続き，イラクへの侵攻を主導して独裁政権を打倒した。これがイラク戦争である。その後，イラクでは暫定自治政府に主権が委譲されたが政情は安定せず，地域の不安定化は進行していった。

設問(6)　イラクの政情不安の一因として，歴史的に形成された民族問題がある。オスマン帝国が解体された際に，ある民族の居住地域が一つの共同体として独立を認められず，その地域がトルコ・イラク・イランなどの別々の国に分断されて各国で少数民族となってしまい，イラクにおいても，弾圧に抗して自治を求めている。この民族名を答えなさい。

V　次の主題A・Bについて，与えられたキーワードをすべて用い，200字以内で歴史的に論述しなさい。なおキーワードには下線を付しなさい。句読点は1マスに1つずつ，数字は1マスに2字まで入れなさい。〔解答用紙記述〕(30点)

A　唐の前半期と後半期の国家体制の変容について，その原因にも触れながら論述しなさい。

キーワード：専売　逃亡　節度使

B　15世紀から16世紀中頃までにかけての教皇庁の歴史の展開について論述しなさい。

キーワード：フス　サン＝ピエトロ大聖堂　トリエント公会議